

学校法人さかえ学園 幼保連携型認定こども園谷津幼稚園

令和7年度自己評価

下記の数字は%

番号	質 問	◎	○	▲	×
1	園の教育理念や教育方針を理解している。	8	86	6	0
2	園の教育方針に共感しイメージできる。	12	80	8	0
3	園の教育方針を理解しつつも、自分も明確な教育観をもっている。	10	80	10	0
4	安全で清潔感のある環境構成をしている。	18	64	18	0
5	楽しい雰囲気の中で安定して遊び込める環境構成になっている。	16	76	8	0
6	季節や乳幼児の実際の活動などにあわせて、的確に環境を再構成できる。	4	80	16	0
7	自分の保育と計画の評価・反省を日々行うように努め、他の教師にも意見を求めながら次の保育・計画に生かすようにしている。	14	68	14	4
8	一人ひとりの乳幼児をよく観察するように心がけている。	40	60	0	0
9	登園時の視診を徹底し、体調不良の幼児に休息をとらせたり家庭へ連絡するなど適切な処置をしている。	38	56	6	0
10	健康面や安全面で、乳幼児へ気をつけるよう適切な言葉がけができている。	30	68	2	0
11	園内で危険が予想される箇所を把握し、事故等の予防に努めている。	16	74	10	0
12	園内の換気、採光、温度調整など環境整備にこころがけている。	24	70	6	0
13	個々の乳幼児の特性を理解し、発達状態や仲間関係などを的確に把握している。	14	76	10	0
14	乳幼児と共に活動し、また共感し、満足感や心の安定を与えている。	24	70	6	0
15	個々の乳幼児の特性に応じた、適切な援助を行っている。	20	72	8	0
16	乳幼児と同じ目線にたつてものを見つめ、思いに寄り添おうとしている。	36	60	4	0
17	品位のある言葉や思いやりのある態度など乳幼児のモデルとなるよう心がけている。	20	70	10	0
18	乳幼児の話に耳を傾け、言葉にならない思いをも理解するよう心がけている。	30.6	65.3	4.1	0
19	乳幼児が自発的に活動できるような言葉がけや働きかけに努めている。	24	72	4	0
20	乳幼児の個性や性格、年齢や発達差に応じたかかわり方に努めている。	20	74	6	0
21	個々の幼児を大切にし、乳幼児同志もお互いを大切にする学級になっている。	18	76	6	0
22	学級のことについて、担任以外の教職員とも情報交換できる環境にある。	34	50	16	0
23	乳幼児の健康状態について、日常的に視診するとともに配慮がなされている。	26	70	4	0
24	仕事の手順をよく考え、能率よく処理するよう努めている。	18	70	12	0
25	仕事外でも社会に目を向けたり趣味を深めるなど人間としての研鑽に努めている。	18	62	20	0
26	自分の健康管理に気を配る生活をしている。	20	64	14	2
27	同僚や保護者とも積極的に交わる中から多くを学ぼうと努めている。	26	62	12	0
28	保育環境を安心かつ安全に活動できる空間に管理できる。	12	80	8	0
29	一日の保育の流れや自分の職務の流れなど時間管理ができる。	18	74	6	2
30	事故や問題が起きた場合の、保護者への説明や対応が迅速かつ的確である。	16	64	14	6
31	保育の向上に向けた職員同士のチームワークができている。	22	66	12	0

32	何でも気楽に園長や副園長や主任教諭などの上司に報告・連絡・相談ができる。	32	54	12	2
33	クラスに関係なく、その場にいた教師が適切な言葉がけや対応をしている。	24	70	4	2
34	学級経営や保育について、お互いにフランクに意見を交換している。	20	60	20	0
35	園長や副園長や主任教諭など上司の指導・助言を素直に聞き入れられる。	40	54	6	0
36	出入り業者など、どんな来園者に対しても、いつも明るく応対している。	52	42	6	0
37	丁寧な言葉で電話応対し、受けた伝言はメモして確実に伝えている。	22	68	8	2
38	職務上知り得た情報は、守秘義務を果たし外部に漏らすことはない。	70	30	0	0
39	平素から不審者等へは俊敏に対応できるような心がけている。	26	62	10	2
40	服装・髪型・身だしなみなど、清潔感あるものを心がけている。	52	46	2	0
41	朝や帰りのあいさつなど、明るく親しみをこめてしている。	52	44	4	0
42	親しくなっても礼儀をきちんとわきまえ、アドバイスには素直に耳を傾けている。	46	52	2	0
43	園や教職員や保護者の批判は、軽はずみにしないよう心がけている。	38	56	6	0
44	いつも感謝の気持ちを忘れないようにしている。	50	48	2	0
45	「どんな仕事でも楽しむ」姿勢を前面に出せている。	40	56	4	0
46	雑用でも手を抜かず、周囲の人間の仕事の状況も把握している。	22	70	8	0
47	メモ帳等を持ち歩き、気がついたことは忘れず書き留めようとしている。	44	36	18	2
48	インターネットの情報検索機能を利用し必要な情報を収集している。	20	66	14	0
49	収集した情報を、保育に取り入れ活かそうとしている。	26	60	14	0
50	個人情報を整理するとともに、情報保護には細心の注意をはらっている。	46	54	0	0

◎かなりできている(十分理解している)、○ほぼできている(理解している)、▲あまりできていない、×努力が必要

【幼保連携型認定こども園3年目】

認定こども園として歩み始めて3年目を迎え、保護者の皆様にもこども園のあり方について少しずつ理解が深まり、温かく見守っていただいていることに感謝しております。また、職員もシフト制の働き方に慣れ、限られた時間の中で工夫しながら業務を進める姿が多く見られるようになりました。

園児が安心して過ごせる環境をさらに整えていくために、園内研修や環境整備を継続して行い、より良い保育環境づくりに努めてまいります。

私たちはこれまで、子どもたち自身が「やってみたい」と感じる気持ちを大切に、行事や日々の集団生活の中で得られる貴重な“直接経験”を重視してきました。乳幼児期に育みたいのは、生きる力だけでなく、これからの社会で求められる非認知能力です。そのためにも、保育者が一方的に進める保育ではなく、子どもが主体的に活動できる環境づくりを大切にしていきたいと考えています。

また、全クラスを複数担任制とすることで、職員同士が連携し、より手厚い保育を提供できる体制を整えています。保護者の皆様とも情報を共有しながら、子どもたちの最善の利益のために支援を続けてまいります。

最後に、保護者の皆様からいただいたご意見、子どもたちの姿、そして自己評価アンケートの結果を真摯に受け止め、課題と向き合いながら、4年目もより良い保育環境づくりに取り組んでまいります。

【園行事等】

運動会を富士見市市民総合体育館のメインアリーナで開催するようになり、今年で3年目を迎えます。近年は猛暑の影響で屋外での長時間活動が難しくなっていることや、雨天による延期の不安定さ、また「園庭での開催を望む声」など、さまざまなご意見をいただいています。

一方で、現在の気候状況を踏まえると、子どもたちが安全に参加できる環境として屋内開催を支持する声も多く寄せられています。園としても、子どもたちが安心して力を発揮できる場を大切にしたいと考えています。

年間を通して、季節ごとの行事をたくさん準備していますが、どの行事も子どもたちにとってかけがえのない経験です。特に年長児の宿泊を伴う「夏の忍者学校(お泊まり保育)」は、昨年に続き今年も実施し、子どもたちの心に深く残る行事となりました。

行事を経験するたびに、子どもたちは心も体も大きく成長していきます。これからも、一つひとつの行事を大切にしながら、子どもたちの成長を支えてまいります。

【情報共有と職員連携】

子どもたちの環境をさらに良いものにしていくためには、設備だけでなく、子どもと関わる職員一人ひとりの成長や連携の質を高めることがとても重要だと考えています。

認定こども園となり、3・4・5歳児に加えて0・1・2歳児の保育が始まったことで、職員数が増え、勤務がシフト制へと変わりました。その結果、幼稚園時代のように全職員が一堂に会して話し合う機会が減り、情報共有や意見交換が難しくなるという課題が生まれていました。

この課題は、認定こども園設立当初から続いていたものですが、今年度は年度末に職員同士が交流できる場を設けることができました。その場をきっかけに、担当学年を超えて乳幼児クラスの職員同士の会話が増え、自然と情報交換も活発になりました。

その結果、保育の質の向上につながる良い変化が生まれています。

今後も、子どもたちにとってより良い環境をつくるため、職員間の連携を深める取り組みを続けてまいります。

【指導計画】

0・1・2歳児の保育では、

- ・身近な人と気持ちを通わせること
- ・身近なものに触れ、感性が育つこと
- ・健やかに、のびのびと成長すること

この3つの視点を大切にしながら、日々の保育を行っています。

また、2歳児が3歳児へ進級する際には、普段過ごす園舎が乳児棟から幼児棟へと変わります。新しい環境に安心して移行できるよう、年度末には幼児棟での慣らし保育を行い、子どもたちがスムーズに進級できるようにしています。幼児期の終わりまでに育てほしい「10の姿」を踏まえながら、子どもたちの成長を見通した指導計画を立て、日々の保育の中に取り入れていきたいと考えています。

一人ひとりの子どもが安心して過ごし、豊かな経験を積み重ねていけるよう、環境づくりと保育の充実に努めてまいります。

【特別支援】

園生活の中では、一斉活動で集中が続きにくかったり、集団での活動が苦手だったり、さまざまな配慮を必要とする子どもたちが増えてきています。私たちは、どの子どもも無理なく、そして楽しく園生活を送ることができるように、支援機関とも連携しながら一人ひとりに合った合理的配慮を行うことを大切にしています。

また、園内研修・園外研修・eラーニングによる学びに加え、専門機関とのケース会議などを重ね、職員の知識や支援技術の向上にも努めています。こうした取り組みを通して、小学校への接続を見据えた切れ目のない支援と保育を行っていききたいと考えています。

子どもたち一人ひとりの育ちに寄り添いながら、安心して過ごせる環境づくりに取り組んでまいります。

【情報発信】

0・1・2歳児クラスでは、子どもたちがその日の活動内容を言葉で十分に伝えることが難しいため、毎日の様子を「コミュニティ」を通して活動記録として発信しています。

3・4・5歳児クラスに進級すると、子どもたち自身が園での楽しかったことや印象に残った出来事を少しずつ話せるようになるため、情報発信の頻度は乳児クラスより少なくなります。ただし、お迎えの際や、その日に担当が気になる様子があった場合には、できるだけ丁寧にお伝えするよう心がけています。

また、園だよりやクラスだよりについては紙での配布を行っていないため、より見やすく、必要な情報が分かりやすく届くようにレイアウトや表現を工夫していきます。今後も、保護者の皆様とより良い連携が取れるよう、分かりやすい情報発信の方法を引き続き模索してまいります。

【リーダー制とキャリアアップ】

当園では、より良い保育環境をつくるために、園内にさまざまな「分野別リーダー」を配置しています。リーダーはそれぞれの分野で専門性を深め、責任をもって職員全体に情報を共有したり、研修を通して知識や技術を高める役割を担っています。

この取り組みにより、職員は自分の得意な分野をさらに伸ばす経験ができるだけでなく、これまで触れる機会の少なかった分野についても新たに学び、技術を身につけることができます。園全体としても、より幅広い視点で子どもたちを支える体制づくりにつながっています。

現在配置している主なリーダーは以下の通りです。

主幹、副主任、保育、障害支援、乳幼児連携、食育・アレルギー、研修、保護者支援、勤務体制改善、職員相談、子育て支援、保健衛生、体力づくり、安全、延長保育、土曜保育、給食改善、収穫、環境整備、訓練、行事 など
職員一人ひとりが学び続ける姿勢を大切にしながら、子どもたちにとって安心して豊かな園生活を提供できるよう努めてまいります。